

じよでね。所によつては腰あたりまでもぐっちゃうんですよ。だから東崎から今の小綱屋さんの方へ行くのにはぐるーと遠回りして行かなけりやなりませんでした。私らがこどもの頃は、男の子らは、ここで棒倒しなんかして遊んでいましたね。というのは、こちら一帯は地面が柔らかいでしょう、そして「ささびたし漁」に使う粗朶が育つんですが、こどもらはその端切れを使って、棒を地面に突き刺して、お互いに倒しっこをやるんです。下駄をくちやくちやにして、よく皆で遊んでました。

それから風をあげるのにも都合のいい所でしたよ。電線が一本も無いでしょう、だから風がよく上ったんです。それにしても、こちら一帯は実にきれいな所でした。川口から極楽田んぼを半分に裂いて水路が真中に走っていて、その水路から又、いくつも枝分れしていて、夫々の家の出し端に通じていたんです。だから漁師が漁を終えて開門橋をくぐって、川口川から極楽へ入ってくるのと、

蓮の花があっちにもこっちにも咲いていて、そこをすーっと船が通り抜けていったんです。自分の家まで陸に上らずに帰れたんですね。そしてこの頃は、隣から隣、みんな仲がいいっていうか、情が厚いっていうか、まるで一軒の家みたいでした。「おらじさお茶飲みにこうよ」とか「おらじで飯食って行けよ。」なんて云い云いした

時代だったのです。ほんとに、あの頃はねー、よかったですねー。

それから、そう、雨が降ると魚がこの辺一帯に上ってきました。だから雨が降りそうだと、雲があそこまで来たら降ってくるぞ、なんていう時になると、みんなえびだるをかついで、大急ぎで田んぼへ行くんです。そして、水路と田んぼの境に細い入口があるでしょう。そこへえびだるを仕掛けて、土をちよっとのせて置くんです。そして雨が止む。そうするとどじょうがたるの中にたくさん入ってるんですよ。一雨毎に、ずいぶんとれたもんです。魚もとれましたよ。今考えると夢のようですよ。筑波線の下にガードがあるでしょう。あそこは新川へ抜ける深い水路だったんですが、あそこにはザザエビがたくさんいたんですよ。網でとると、それこそほんのちよっとの間に横田ざるいっぱいザザエビが取れたもんです。

鯉も鮒も、田んぼで取れました。特に苗代を作る時は田んぼに水を引くんでしよう、そうすると、苗代の間にはたくさん鮒が入ってくるんです。だからその鮒を手づかみでとったんです。全く信じられないでしょうが、こうして手づかみでいくらでも取れたんです。どうしてあんなに取れたんでしようねえ。